

# 謹賀新年

～年頭のご挨拶～

市長 櫻田 宏

議長 尾崎 寿一

あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、お健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は、「健康都市弘前の実現」に向けて、「ひとの健康」、「まちの健康」、「みらいの健康」の達成を目指し、分野横断で各種施策を展開いたしました。

当市は、県内唯一の「SDGs 未来都市」として持続可能なまちづくりを進めるとともに、「ゼロカーボンシティひろさき」を宣言し、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでおります。ごみ袋の有料化や指定袋制度の導入をすることなく、市民の皆様との協働でごみの減量化に取り組んだ結果、着実に成果をあげており、本年4月からは新たにプラスチックを資源として分別収集するなどし、更なる二酸化炭素の排出量削減につなげてまいります。

本年は、中心市街地の「再生」に向け、第3期弘前市中心市街地活性化基本計画の策定と併せて、中心市街地が担う機能の強化や賑わいの回復に向けた各種取組を重点的に実施していくほか、基幹産業である農業では担い手確保の取組を強化し、国内外のプロモーションでは、観光と農業の連携や、弘前ゆかりの植物学者「郡場 寛（こおりば かん）」を通じたシンガポール植物園との交流、観光 PR などに取り組み、地域産業の活性化を図ってまいります。

また、プロ野球一軍公式戦 楽天対オリックス戦が5月に、そして、巨人対ヤクルト戦が6月に開催されます。地域の活性化を図りながら、一流のスポーツに触れる機会を通して子どもたちの心を育む取組を進めるとともに、高齢者の居場所づくりの充実を図るなど、全ての世代の市民が元気で長く活躍できるまちづくりを推進してまいります。

本年は、旧弘前市・岩木町・相馬村の合併から20年の節目の年です。この節目に、改めて当市の将来を展望し、人口減少、少子高齢化が進展する中であっても、弘前の発展のために市民の皆様との協働によるまちづくりを進めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き年となりますことを祈念申し上げまして、新年の挨拶といたします。

新年おめでとうございます。

市民の皆様方にはお健やかに初春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

平素は市議会に対しまして、深いご理解と格別なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、不安定な世界情勢や円安などによる長引く物価高騰、さらには記録的な豪雪やクマなどの鳥獣による農作物被害など、市民生活や社会・経済活動に様々な影響がありました。

こうした状況を受け、市政の一翼を担う市議会では、除排雪事業等の推進や鳥獣被害防止対策の強化を求める要望書を市へ提出するなど、平和で安心して住み続けられるまちづくりの実現に向け、日々取り組んでいるところであります。

さて、今年は、旧弘前市・岩木町・相馬村が合併して20周年という、大きな節目の年を迎えます。3つの地域がそれぞれ育んできた文化や歴史、豊かな自然、産業の力が一つに結びつき、現在の弘前の基礎を形づくってまいりました。

この20年の歩みは、市民の皆様の地域への誇りと連帯の力によって支えられてきたものであり、市議会としても、この節目を新たな未来へ踏み出す重要な機会と受け止めております。次の20年を見据え、持続可能で活力ある地域づくりに引き続き力を尽くしてまいります。

市議会では、議会改革特別委員会を設置して、常任委員会の機能強化による政策提言の充実、市民の声を聴く機会の拡大など、より開かれた議会運営を目指して改革を進めております。

新たな年を迎え、引き続き積極的な議会改革、議会の活性化に努めるとともに、市民の皆様の暮らしに寄り添い、地域課題の解決に向けて誠実に取り組む議会を目指してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この1年が、皆様にとりまして健康で幸せの多い年となりますことを心からお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

## 一年を振り返って…

昨年1年間の弘前市の取り組みや出来事を振り返ります。



国・市補助で弘南バス株式会社がEVバスを導入（3月）

脱炭素社会の実現に向けて、EV（電気）バス2台が土手町循環バスとして運行を開始しました。



国スポリハーサル大会開催（5～9月）

県内では49年ぶりに開催される本大会に向けて、市では6競技のリハーサル大会が行われました。



航空機設計者・藤野道格さん  
名誉市民に決定（6月）

10月には多くの市民の皆さんにお集まりいただき、名誉市民顕彰記念式典・講演会を開催しました。



石川小・中学校等  
複合施設全面供用開始（8月）

市内初の学校と、公共施設（地域交流館あじさい）が一体となった複合施設の全面供用を開始しました。



シンガポールにて  
弘前プロモーションを実施（10月）

弘前ゆかりの植物学者「郡場寛」を通じたシンガポール植物園との交流、観光 PR などに取り組みました。



弘前城天守曳戻し・耐震工事等に  
伴い7年間の休館へ（11月）

長期休館前最後の営業日には、天守内部は多くの来場者でにぎわっていました。

## その他の取り組みや出来事

- 大雪に伴う倒木により国指定の重要文化財「弘前城二の丸末申櫓」が一部損壊（1月）
- 豪雪により観測史上最深の積雪160cmを記録（2月）
- 農林水産省発表、市町村別農業算出額で10年連続東北1位、果実算出額で全国1位（3月）
- ゼロカーボンシティひろさき推進協議会設立総会の開催（4月）
- 岩木山標高1,625mから1,624mへ変更（4月）
- りんご植栽150周年記念 弘前りんご花まつり2025開催（5月）
- 広島市で初めて観光プロモーションを実施（5月）
- 弘前ねぶた in 神戸2025開催（5月）
- 世界自然遺産5地域会議による大阪・関西万博への参加（5・6月）
- 経済産業省「産業用地整備促進伴走支援事業（適地選定調査）」に採択（6月）
- 大東建託による街の住みこちランキング2025青森県版で3年連続1位（6月）

- 株式会社JTBと「協働による持続可能な観光地づくり等に関する包括連携協定」締結（7月）
- 「弘前市クマ被害危機管理対策会議」開催とクマ被害対策の強化（8月）
- ノボ ノルディスク ファーマ株式会社と「肥満症対策を通じた健康寿命延伸に向けた取組に関する連携協定」締結（8月）
- 中心市街地を市民と共に考える「弘前まちなか未来会議」・「まちなか未来ラボ」始動（8・9月）
- 防災備蓄を活用した生理用品の無償配布を開始（10月）
- 最勝院護摩堂ほか8棟が国の登録有形文化財に登録（11月）
- 弘前初の行政代執行（特定空き家の除却）に着手（11月）
- はるか夢球場でのプロ野球2026年シーズン、セ・パ両リーグ公式戦の開催決定（11月）
- 県内初となる賃上げ応援奨励金交付事業を開始（11月）
- 東北初の宿泊税制度を開始（12月）